

## 就労定着の事例発表

### 「ゆい」障害者就業研修会

障害者就業・生活支援センター「ゆい」の研修会は2月18日、迫公民館で開かれ、20人が参加しました。

研修では、発達障がいがあり、支援学校卒業後に正社員として採用された高橋拓斗さん(21)＝迫町下舟丁＝が「目標を持ってはたらく」をテーマに発表。就労先での実習から3年目の現在までに、苦労したことや頑張ってきたことなどの体験を話しました。アドバイザーの水落清次さんは「発達障がいがある人にとってはメモを取ることもハードルが高いので、ホワイトボードの利用やイラストや写真での指示などの配慮が必要」と語りました。



発表した高橋さんは「これからも一つ一つ目標をこなし、一人前の板前になれるよう努めたい」と目標を語りました。

## 子どもらの力作展示

### 石ノ森記念館で自主企画展

第22回自主企画展「石ノ森ふるさとマンガ作品展」が、2月5日から3月6日まで石ノ森章太郎ふるさと記念館で開かれました。

作品展は、青少年の健全育成を目指し、マンガを通じて自由な自己表現の機会にしようという企画。市内の子ども園や市内外の小、中、高校などから231点の応募がありました。作品は、石ノ森ヒーローだけでなく独創性にあふれたオリジナルのキャラクターなど力作ぞろい。園児たちが描いた元気いっぱいライダーや審査員をうならせるほどの完成度の高いイラストなどが来館者を楽しませていました。



応募された全ての作品が、石ノ森ヒーロー作品やオリジナルのイラスト、漫画などの部門別に展示されました。

## 地域住民でつながる

### 企画展で手作り作品披露

「にしごう企画展」(西郷地区コミュニティ推進協議会主催)が、2月17から19日まで西郷公民館で開かれました。

企画展は、地域住民が趣味や教室で作った作品を展示して、地域の皆さんに披露し楽しんでもらうために開催。地域住民のほか、老人ホーム入所者が製作した作品も披露されました。細やかな手作業が必要なハワイアンキルトは、地域の高齢者たちが作成。企画展を訪れた関口和恵さん(75)＝南方町沼崎＝は「頑張って作った作品を発表する場があることは良いですね」と笑顔で話しました。



販売できるほど立派な出来栄の絵手紙の掛け軸やかご、お面、羽子板など、多数の力作が並び、訪れる人を魅了しました。

## 800年続く伝統行事

### 火伏せ願う米川水かぶり

ユネスコ無形文化遺産の「米川の水かぶり」は2月10日、東和町米川地内で開かれ、男衆15人が家の前に準備された木桶の水を家々の屋根に掛けながら、火伏せを願いました。

水かぶりは、五日町地区に800年以上前から伝わる伝統行事。本年は、小学5年から66歳までの地域住民15人がわら装束を身にまとい参加しました。昨年に続き、感染拡大予防として、マスクの着用と検温、手指消毒などを徹底しての開催。来場者は少ないながらも、屋根に水を掛けながら歩く男衆のほか、火伏せを願ってわらを集める人など、伝統の光景が見られました。



雪が舞い散る中、男衆は木桶に入った水を屋根などに掛けながら地域の防火を祈りました。

## 歴史と思いを感じて

### ひな人形や調度品を公開

特集展示「ひな人形」が2月19日から3月21日まで市歴史博物館で開かれています。

同展示は、昨年度の企画展「桃と菖蒲の節句展」を見た利用者からの「今年もひな人形を見たい」という声を受けて企画。享保雛や次郎左衛門雛のひな人形のほか、一緒に飾られていた御所人形などの調度品も展示されています。企画した学芸員の小野寺智哉さんは、「新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな季節のイベントが中止になる中で、ひな人形を見て、春の訪れを少しでも感じてもらえたらうれしい」と企画に込めた思いを話しました。



ひな人形や調度品は佐沼巨理家から寄贈された江戸時代のもので、刻まれた歴史や当時の人々の思いを感じることができます。

## 特殊詐欺の根絶願う

### 高齢者に注意を呼び掛け

「特殊詐欺被害防止キャンペーン」(登米警察署主催、熊谷康署長)は2月15日、登米総合体育館で実施され、同署員が来場者に啓発チラシなどを配布しました。

県内では、税金や医療費などの還付金目でのATMに誘導して現金を振り込ませる還付金詐欺などの特殊詐欺被害が多発。昨年は、市内でも6件約700万円の特殊詐欺被害がありました。村上雅典生活安全課長は「被害者の多くは高齢者となっているので注意が必要です。少しでも怪しいと感じたら、一人で判断しないですぐに家族や警察に相談してほしい」と特殊詐欺被害根絶を呼び掛けました。



同署オリジナルヒーロー「トメルンダー」が、ワクチン接種に訪れた来場者に還付金詐欺などへの対応法を説明しました。